

産後クライシス 女性の半数実感

岡山大「夫行動で改善余地」

出産を経験した女性の約半数が、夫婦の愛情が急速に冷え込む「産後クライシス」に陥ったとの調査結果を岡山大のグループがまとめた。始まった時期は出産後3カ月以内が8割近くを占めた。

岡山大学院保健学研究科の中塚幹也教授らは、2015年に岡山県内の保育園や子育て支援拠点11施設を利用する母親684人に質問紙を配布。回答があった353人を分析した。

回答者は平均33・7歳、

結婚した年齢は平均28・2歳。産後クライシス（出産後2年以内に夫婦の愛情が急速に冷え込む状況）について「かなり当てはまる」は10・3%、「どちらかといえば当てはまる」は39・6%で計49・9%。このどちらかに当てはまる女性の約6割は回答時点でも続いていると答えた。

産後クライシスの要因を、夫との関係性に関する項目（夫への嫌悪感▽セックスストレスになった▽夫に父親の自覚がないと思うな

ど）と、症状に関する項目（疲れやすい▽イライラする▽寝不足▽性欲がなくなったなど）に区別。それぞれ0〜3点で自己評価し、夫の育児や家事の行動に対する評価と比べた結果、夫との関係性の評価が悪い人は夫の行動に対する評価も低かった。症状に関する項目の評価は、夫の行動の評価と関係がみられなかった。

夫との関係性について「夫の行動で改善の余地があり、育児参加できる環境づくりが大切だ」と中塚教授。症状に関する項目については、「医療者のサポートが必要」と話す。（阿部彰芳）